2012年 8月16日

会社名　　Ｊ.フロント リテイリング株式会社
コード番号　3086
代表者名　　代表取締役会長兼最高経営責任者
　　奥　田　　務
お問合せ先　経営計画事業統括部
　　グループ広報･ＩＲ担当
ＴＥＬ　　03-6895-0178

２０１２年７月度　Ｊ．フロント リテイリング　連結営業報告

１．セグメント別売上高（対前年増減率：%）

	７月度	３～７月度累計
百貨店事業	▲ 2.7 （ ▲1.4 ）	1.1 （ 2.2 ）
ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ事業	▲ 11.0	▲ 10.2
卸売事業	39.2	13.5
ｸﾚｼﾞｯﾄ事業	0.9	4.8
その他事業	▲ 0.7	8.5
連　結　合　計	▲ 1.9	0.2

（注）百貨店業合計の（　）内は博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く既存店ベース。

２．売上高概況

１）百貨店事業

・７月度の百貨店事業の売上高は､ラグジュアリーブランドが引き続き好調を持続したものの、前年に対して土曜日が▲1日減であったことに､月初気温が平年を下回って推移したことでクリアランスセール立ち上がりの動きが鈍かったことと、一部店舗で６月にクリアランスセールを前倒ししてスタートした影響も加わり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲1.1%減、百貨店事業合計では同▲1.4%減となった。

２）スーパーマーケット事業

・ピーコックストアは、首都圏店舗を中心に競合激化が続いたことに加え、閉鎖店舗（みさと店など計３店舗および１事業所）の影響もあり対前年▲11.0%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲13.0%減、関西地区が同▲7.5%減、中部地区が同▲9.3%減であった。

３）その他

・卸売事業の大丸興業は、金属樹脂加工品、食品などの好調により対前年39.2%増となった。
・クレジット事業のＪＦＲカードは、会員増による年会費収入の増加や、リボ払いを利用されるお客様の増加などが寄与し対前年0.9%増となった。

お問合せ先　　Ｊ.フロント リテイリング株式会社　　グループ広報・ＩＲ担当
ＴＥＬ　　０３－６８９５－０１７８
ＦＡＸ　　０３－６６７４－７５６５

２０１２年７月度　百貨店事業　営業報告

１．売上高および入店客数（対前年増減率：%）

	７月度		３～７月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	▲1.7	2.2	0.4	4.2
大丸 梅田店	1.5	▲4.2	5.0	▲2.7
大丸 東京店	▲5.0	▲6.5	8.4	9.1
大丸 ららぽーと横浜店	▲6.8	▲5.6	▲2.2	▲0.7
大丸 浦和パルコ店	▲1.1	1.2	3.6	7.8
大丸 京都店	▲1.2	0.1	0.9	1.1
大丸 山科店	▲1.2	▲1.6	▲1.7	▲2.7
大丸 神戸店	2.9	4.5	4.6	5.9
大丸 新長田店	▲4.3	▲4.8	▲2.2	▲3.0
大丸 須磨店	▲4.5	▲2.9	▲2.2	▲2.6
大丸 芦屋店	▲5.9	▲7.8	▲3.0	▲7.2
大丸 札幌店	▲1.5	▲3.0	2.6	0.1
松坂屋 名古屋店	▲2.3	19.8	1.3	29.3
松坂屋 上野店	2.6	▲4.4	2.8	2.8
松坂屋 静岡店	▲4.1	2.3	▲0.1	8.9
松坂屋 銀座店	▲3.4	▲1.3	5.5	16.7
松坂屋 高槻店	▲3.3	▲9.9	▲0.9	▲4.3
松坂屋 豊田店	▲3.3	0.1	2.3	3.0
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.1	▲1.0	2.5	3.7
博多大丸	▲3.9	▲4.9	0.8	▲1.1
下関大丸	▲4.3	▲5.8	▲1.5	▲4.3
高知大丸	▲4.4	▲2.8	▲0.8	2.6
百貨店事業合計	▲1.4	－	2.2	－

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く。
前年に博多大丸長崎店を含めた7月度の博多大丸合計は対前年▲17.4%減、百貨店事業合計は同▲2.7%減。3～7月度累計は、博多大丸合計同▲11.3%減、百貨店事業合計同1.1%増。

２．大丸松坂屋百貨店　商品別売上高（対前年増減率：%）

	７月度	３～７月度累計
紳士服・洋品	▲3.0	2.5
婦人服・洋品	1.4	5.8
子供服・洋品	▲4.1	0.0
その他の衣料品	1.4	3.2
衣料品計	0.4	4.8
身 回 品	▲3.6	▲0.2
化粧品	0.6	4.8
美術･宝飾･貴金属	▲0.3	3.9
その他雑貨	▲12.7	▲12.3
雑 貨 計	▲0.9	2.9
家　具	▲13.3	▲12.8
家　電	5.4	15.0
その他の家庭用品	5.5	5.5
家庭用品計	0.2	0.9
生　鮮	▲2.1	▲1.9
菓　子	▲2.4	3.1
惣　菜	▲1.6	1.7
その他食料品	▲2.7	▲1.3
食料品計	▲2.3	0.6
食堂・喫茶	▲1.8	4.5
サービス	▲19.0	▲15.5
そ の 他	1.4	▲0.5
合　　計	▲1.1	2.5

３．売上高概況

婦人服・洋品は、月初の天候不順などにより夏物クリアランスの立ち上がりの動きが鈍かったものの、名古屋店の改装効果もあり好調なラグジュアリーブランドが牽引して前年を上回った。紳士服・洋品は､ジャケットは良く動いたがスーツ､ワイシャツなどが苦戦した。身回品は、アクセサリーやハンドバッグは堅調であったものの、サンダルやパラソルなどの盛夏アイテムが前年を下回った。雑貨は、化粧品、宝飾品が堅調であった。食料品は、神戸店が改装効果で好調を持続したものの、お中元ギフトが苦戦した。